

世界的ベストセラー
THE WHOLE INTERNET
広告媒体としてのGNNに期待する同社のリサ・ガンスキ
ーさん。



そこでCD-ROMも検討したが、まだ標準がはっきりせず、異なる機種のコンピュータで同じ内容を有効に利用できなかった。個々のマニュアルをオンライン化する話も各社からあったが、別々に作っていては手間ばかりかかってしまう。

「一時はVIOLAという共通のブラウザーツールを開発した。ところがその後、インターネット上にモザイクなどができる、機種によらず一つのオリジナルを使え、おまけに有効に流通できることが分かり、そちらへと移行した」とオンラインを担当するデール・ダグバーティーさん。

同社が始めたGNN (Global Network Navigator) は、出版関連としてはウェブを使った最も早いサービスで、『Whole Internet Catalog』やお勧めサイトの案内を含む、カタログや広告を掲載したサイトだった。最初は、加入者のみに有料で出版することも考えたが、まだ料金を徴収したりセキュリティを確保する方法がはっきりしないため、市場が進む方向をまず見定めることにした。

「とはいってもGNNは、ビジネスプランもないまま始めたというのか実情。しかし、流行に乗ってもうけたいというわけではなく、まずは新しいメディアにはどういうコンテンツがふさわしいかを見定めるために実験をしたい」とオライリーさんの本音のぞく。

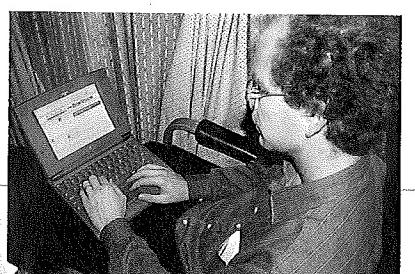
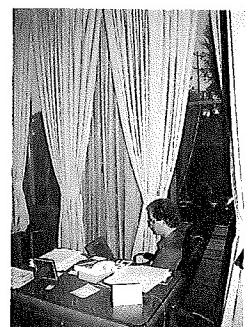
「いま多くのサービスは、テクノロジーとコンテンツがアンバランスなものばかり。でも、本当に必要なコンテンツは実際に使ってみなければ分からぬ。世間は、インターネットでのビジネスに浮かれているが、まずネットワークの上で価値あるものを見つけて育て、それから料金の問題などを考えればよい」とダグバーティーさん。

これからは、教育関係への応用を重視して、新しい出版メディアの実験を続けていく予定だ。

情報の道筋をつけた WAIS

Brewster Kahle

社長ブルースター・カール



ブルースター・カールさんは、もともと超並列コンピュータのチップをデザインしていた。

「いまのインターネットは、巨大なネットワークの海の中に、情報のある島が脈絡がないままに点在している状態だ。そこに出でていっても迷うばかり。いまそこで求められるのは、こうした情報をつないでいく道筋、つまりコンテンツだ」と、WAIS社のブルースター・カール社長は言う。

WAISは「Wide Area Information Servers (広域情報サーバー)」の略で、インターネットの各所に点在するサーバーにWAISのソフトを入れておけば、利用者がどこに情報があるかを意識しなくても、全体を一つのデータベースのように使えるというものだ。

自分の端末から一つのキーワードを入力すれば、各所にあるデータベースを横断して検索することができる。あるキーワードで面白い結果が得られたら、「それに似たデータを探してほしい」とリクエストも出すことができ、比較的自然で自由な検索が可能だ。普通のWWWにアクセスした場合のように、自分で選んで一つ一つリンクをたどっていくという手間はいらない。

WAIS社は、広域で大量の多種データを統一的に扱うネットワークの時代が来ると考えた、超並列コンピュータで有名なシンキングマシンズ、『ウォルストリート・ジャーナル』を発行するダウ・ジョーンズ、大手の会計事務所ピート・マーウィック、アップルの各社が89年に始めた共同プロジェクトをもとに、92年に設立された。

出版社、書店、新聞社、図書館など、出版関連のページを探したければWAISはベスト。オンライン版の『Yellow Page』(電話帳)は便利だが、アメリカのみだ。書籍のディスカウントをしている出版社もある。ブルースター・カール氏の人物誌なら『Internet '95 Show』のページで、読み疲れたら『Information Week』の『Cyber Vegas』で、トランプのブラックジャック・ゲームを。

- WAIS Netwatch
- CMP Publications
- Browse the WAIS Directory of servers

POWER TOOLS FOR ONLINE PUBLISHING
WAIS Inc. ● <http://www.wais.com/>



WAIS



出版社と付き合いか多いので、ピクトリア風の落ち着いたオフィスにしたいというWAIS。近々、『WIRED』などのあるサンフランシスコのダウンタウンに越す。

未来の出版を目指して

WAIS社のソフトは、国会図書館のような政府機関や、『ニューヨーク・タイムズ』の電子新聞、大手の電子工業界誌を出すCMP社などの出版業界でも使われている。CMP社は20近く雑誌を出しているが、各地にあるWAISのサーバーを使って、全国に散在する編集者が一つの雑誌を共同して編集してオンライン出版している。また、利用者のアクセスデータを集めることで、出版社はどういう記事がどういう地域で読まれているかを瞬時に調査することができ、雑誌の販売やその他の新規ビジネスにも役立てることができる。

「インターネットの出現で出版は根本的に変化する。出版社はWAISのようなソフトによって、一つのコンテンツを複数のフォーマットで提供できるようになるし、読者にとっては自分の欲しい内容を、出版社の都合やタイミングではなく自分でコントロールして決め、自分のコンテキストを作ることができるようになる」とカール氏。

カール氏本人も、自分の欲しい情報を登録しておけば、それを優先的に伝えてくれるWAISを応用した電子新聞を毎日のビジネスに役立てている。

紙と電子新聞の 共有関係

紙

と電子新聞の

共有

関係

San Jose Mercury News

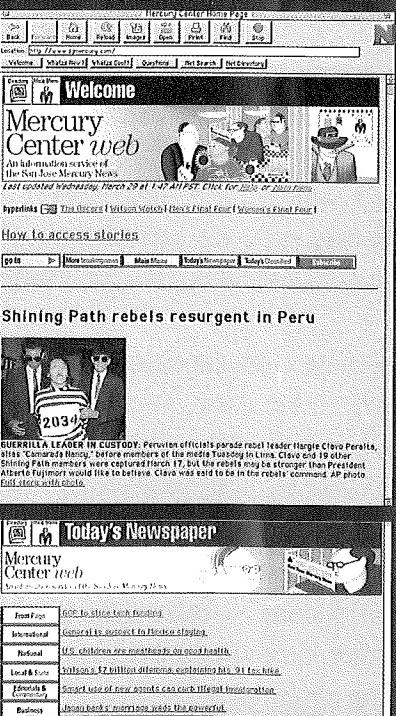
サンノゼ・マーキュリー・ニュース

Bill Mitchell

スタンフォード大学、アップル、シリコングラフィックスなどを擁するシリコンバレーの中心、サンノゼの地元紙『サンノゼ・マーキュリー・ニュース』(以下マーキュリー・ニュース)の読者を調査したところ、モニタ保有率は全米平均の3倍に達するという結果が出たといふ。それを見ると、今年の1月18日に、同紙がインターネットでの新聞発行を開始したのは、当然の成り行きだったとも思えてくる。

親会社にあたる米国の大手新聞グループ、ナイト・リッターは、かつてはマイアミでビュートロンと呼ばれるビデオテクストによる電子新聞実験も手掛けたことがあり、また現在、コロラド州のボルダーの情報デザイン研究所で未来のタブレット型電子新聞を研究するなど、新しいメディアの開発に積極的に取り組んでいることで知られている。

現在、アメリカでは『ニューヨーク・タイムズ』や『ワシントン・ポスト』、『USAトゥデイ』など20紙以上が、アメリカ・オンライン、コンピューターズなどのパソコン通信やインターネットで情報サービスを行っているが、ウェブ



Mercury Center web ● <http://www.sjmercury.com/>

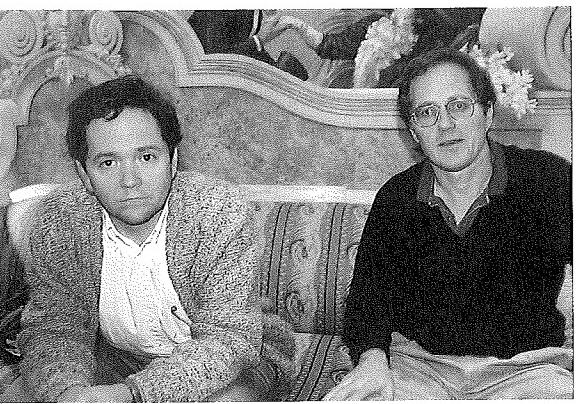


新聞には毎日、マーキュリー・センターが提供する電子情報の使い方のガイドが付けられている。センターのマークがある記事には、電子情報へのリンクが張られている。



● Global Network Navigator
<http://www.ora.com/gnn/gnn.html>

O'REILLY & ASSOCIATES



ティム・オライリー社長(右)と、オンライン担当のデール・ダグバーティーさん。「インターネットは目的でなく、あくまでも問題解決の手段」と口をそろえる。

オライリー&アソシエーツは、77年にコンピュータ関係のコンサルティング会社として、UNIX関連のマニュアル作りを請け負うことからスタートし、85年から自社でも出版を始め、いまでは80近い書籍を出している。

「われわれは、出版すること自体を目的にしたのではなく、むしろコンピュータを使う際に起きた問題を解決するために、出版という手段が必要だっただけ。この世界では、誰かが知っていても書かれていないことが多すぎた」と、ティム・オライリー社長。

インターネットではUNIXで動くコンピュータが多く、インターネット関連の本はその自然な延長線上にあった。それまでは専門家向けのマニュアルばかりだったが、92年に同社の出した『Whole Internet Catalog (邦訳: インターネット・ユーザー・ガイド: トムソン・パブリッシング刊)』はより一般向けで、インターネットの急成長期に出されたこともあって、全世界で50万部という驚異的なヒットとなった。

「本の売れ行きを見て、インターネットのパワーを感じたことも確か。しかし一方では、うちの読者がコンピュータの利用者なので、それ以前からコンピュータの画面を通して電子的に出版できないかと考えていた」と、オライリーさん。

Color copy
Cut 1st far left
Column & fit far right
Column of 1st page
on same page as 2nd
page.

See Sample b&w

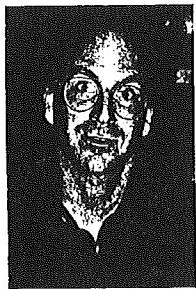
75 copies

社長ブルースター・カール

WAIS

情報の道筋をつけたい

What we need is not the content, but the context.



ブルースター・カールさんは、もともと超並列コンピュータのチップをデザインしていた。



「いまのインターネットは、巨大なネットワークの海の中に、情報のある島が脈絡がないままに点在している状態だ。そこに出でていっても迷うばかり。いまそこで求められているのは、こうした情報をつないでいく道筋、つまりコンテンツだ」と、WAIS社のブルースター・カール社長は言う。

WAISは「Wide Area Information Servers (広域情報サーバー)」の略で、インターネットの各所に点在するサーバーにWAISのソフトを入れておけば、利用者がどこに情報があるかを意識しなくとも、全体を一つのデータベースのように使えるというものだ。

自分の端末から一つのキーワードを入力すれば、各所にあるデータベースを横断して検索することができる。あるキーワードで面白い結果が得られたら、「それに似たデータを探してほしい」とリクエストも出すことができ、比較的自然で自由な検索が可能だ。普通のWWWにアクセスした場合のように、自分で選んで一つ一つリンクをたどっていくという手間はいらない。

WAIS社は、広域で大量の多種データを統一的に扱うネットワークの時代が来ると思った、超並列コンピュータで有名なシンキングマシンズ、「ウォールストリート・ジャーナル」を発行するダウ・ジョーンズ、大手の会計事務所ピート・マーウィック、アップルの各社が89年に始めた共同プロジェクトをもとに、92年に設立された。



WAIS

出版社と付き合
いが多いので、
ピクトリア風の
落ち着いたオフ
イスにしたいと
いうWAIS。近
々、「WIRED」
などのあるサン
フランシスコの
ダウンタウンに
越す。



WAIS社の成果をもとにダウ・ジョーンズ社では、キー
ワードを使わない通常文章により巨大なニュース・データ
ベースを検索できる「ダウ・ビジョン」というサービスを
実用化しており、アップル社もLANの上で情報検索を行
う「アップル・サーチ」という商品を出している。

未来の出版を目指して

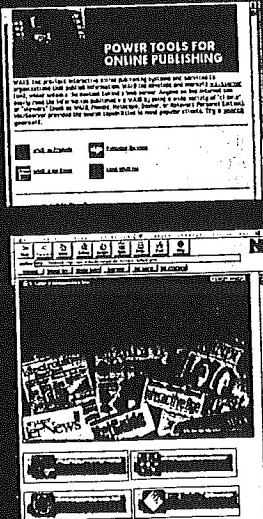
WAIS社のソフトは、国会図書館のような政府機関や、『ニューヨーク・タイムズ』の電子新聞、大手の電子工業界誌を出すCMP社などの出版業界でも使われている。CMP社は20近い雑誌を出しているが、各地にあるWAISのサーバーを使って、全国に散在する編集者が一つの雑誌を共同して編集してオンライン出版している。また、利用者のアクセスデータを集めることで、出版社はどういう記事がどういう地域で読まれているかを瞬時に調査するこ
ができる、雑誌の販売やその他の新規ビジネスにも役立てる
ことができる。

「インターネットの出現で出版は根本的に変化する。出版
社はWAISのようなソフトによって、一つのコンテンツを
複数のフォーマットで提供できるようになるし、読者にと
っては自分の欲しい内容を、出版社の都合やタイミングで
なく自分でコントロールして決め、自分のコンテンツを作
作することができるようになる」とカール氏。

カール氏本人も、自分の欲しい情報を登録しておけば、
それを優先的に伝えてくれるWAISを応用した電子新聞を
毎日のビジネスに役立てている。

出版社、書店、新聞社、図書館など、出版関連のページを探
したければWAISはベスト。オンライン版の「Yellow Page」
(電話帳)は便利だが、アメリカのみだ。書籍のディスカウントをしている出版社もある。ブルースター・カール氏の人物誌
なら「Internet'95 Show」のページで。読み疲れたら「Information Week」の「Cyber Vegas」で、トランプのブラックジャック・ゲームを。

- WAIS Netwatch
- CMP Publications
- Browse the WAIS Directory of servers



POWER TOOLS FOR
ONLINE PUBLISHING
WAIS Inc. ● <http://www.wais.com/>